4．大谷大学図書館所蔵貝葉写本の特色

吉　元　信　行

1.『サーラサンガハ』の貝葉写本

ここで、すでに PTS より校訂出版されているいるテキストで、本写本との校合によりさらなる学術的成果の期待されるもののひとつの照合例として、たまたま筆者が研究のため一部を照合したことのある "Sārasaṅgaha"（〈Ss〉）を取り上げることにしたい。〈Ss〉は、佐々木現順博士によって数種の写本・刊本が照合され、1992年に PTS より校訂出版されたものであるが、大谷大学図書館所蔵貝葉写本（以下〈大谷パーリ貝葉〉）は未整理であったため参照されていない。〈大谷パーリ貝葉〉にはクメール文字による２種類（A：請求番号 XVI, B：請求番号 LII）の不完全な〈Ss〉の写本が存在する。全 phuuk 15 のうち、A には phuuk 3-9 が欠けており、B には phuuk 1, 9, 13 以下が欠けているが、このＡＢ２本を合わせることにより、〈Ss〉写本の全部を通して参見できることになり、かなりの部分に２種類の写本を参照することができる。照合してみるとエディションと写本の間にはかなりの異同がある。紙面の都合で、最初の１頁である帰敬偈の部分のみを完全照合し、第１章について注目すべき異同のみを指摘することにしたい。第１頁の括弧に入らない注の数字は佐々木博士によるものであり、括弧内の数字の注記は〈大谷パーリ貝葉〉との異同である。

Sārasaṅgaha, ed. by G. H. Sasaki, Oxford : PTS, 1992, p. 1

Namo tassa bhagavato arahato sammāsambuddhassa

1 Mahākāruṇikaṃ[1] nāthaṃ dhammaṃ[2(1)] tena sudesitaṃ,
ñatvā[3(2)] ariyasaṅghañ ca dakkhiṇeyyaṃ niraṅgaṇaṃ.

2 Dassayissaṃ samāsena pavaraṃ Sārasaṅgahaṃ[(3)],
samāharitvā vividhaṃ nayaṃ satasukhāvahan[4(4)] ti.

Tatrāyaṃ Mātikā

3 Buddhādim abhinīhāro[(5)] kiriyaṃ satthumabbhutaṃ[5(6)],
pañca antaradhānāni cakkavattī[(7)] vibhāvanaṃ.

4 Saṃbuddhacakkavattīnaṃ[(8)] cetiyānaṃ nidassanaṃ,
sammajjanānisaṃsañ ca dhammasaṅghānam[(9)] abbhutaṃ[(10)].

5 Niddāvibhāvanañ c'eva supinassa ca dīpanaṃ,
buddhadhammānam āyatto[6(11)] vatthūnaṃ parivattanaṃ.

6 Pabhedo saraṇasīlānaṃ kammaṭṭhānam anālayaṃ,
agāravo ca[(12)] ratanānaṃ kammabhedavibhāvanaṃ.

7 Ānantariyakammaṃ[(13)] ca micchādiṭṭhivibhāvanaṃ,
ariyūpavādakammañ ca kohaññadīnavam pi ca.

8 Maccherānaṃ pabhedo ca tividhagginidassanaṃ,
dānādipuññakammañ ca sattāhāravivecanaṃ.

9 Yonippabhedo sattānaṃ pumitthiparivattanaṃ[(14)],
ṭhīnaṃ[(15)] paṇḍakanāgānaṃ supannānañ[(16)] ca bhedanaṃ.

10 Petāsurānaṃ devānaṃ bhedā[(17)] paṭhavivaḍḍhanaṃ[(18)],
mahīkampaṃ[(19)] tathā vuṭṭhivātādīnaṃ[7] pakāsanaṃ,
pakiṇṇakakathā[8] iddhi lokasaṇṭhānam eva cā ti.

---

1. S_1. mahākarunikam ; N. L. B. K. mahākārunikam. 2. N. dhamman.
3. N. L. natvāna ; K. B. natvā. 4. S_1. -sukhāvahanan.
5. N. satthu-m-abbhutam ; S_1. satthuabbhutam ; L. B. K. sathumabbutam.
6. N. buddhadhammanam āyatta ; S_1. buddhadhammam āyatta ; B. L. K. buddha-dhammanam āyatta.
7. S_1. tattha vutthivatadīnam ; N. tatha vutthi-vatadīnam. 8. S_1. pakiṇṇakakatha.

〈大谷パーリ貝葉〉
(1) dhamman (2) natvā (3) Sāratthasaṅgahaṃ (4) sukhāvahan
(5) abhinihāro (6) satthuabbhūtaṃ (7) cakkavattī (8) Sambuddha-
(9) -saṃghānam (10) abbhūtaṃ (11) āyattaṃ (12) omits
(13) anantariyakammañ (14) pumitthīparivattanaṃ (15) thīnam
(16) supaṇṇanaṃ (17) bhedo (18) paṭhavīvaḍḍhanaṃ (19) mahikampan

Chapter 1 Abhinīhārakathāsaṅgahanayo における主要な異同

頁	行	テクスト	写本
02.	11	dve	omits.
02.	15	p'ete	c'ete
02.	16	vipacitaññū	vipaccitaññū
02.	16	ñeyyo	neyyo
02.	22	catuppadaṃ	catupadaṃ
02.	23	apariyosite	apariyositāya
02.	25	Sace	yadi
02.	26	satthārā	satthāranaṃ
02.	26	vatvā	sutvā
02.	27	adhigantuṃ	pattuṃ
02.	29	Appatvā	apatvā
02.	31	tadanurūpaṃ	tadanurūpe
03.	01	nipphajjanakaṃ	nipajjanakaṃ
03.	01	appatvā	apatvā
03.	04	evaṃ	eva
03.	14	mūlanidhānass'etaṃ	mūlanidhānassa taṃ
03.	18	dānādīni	dānāi-
03.	21	Tattha	ettha
03.	30	-paribbājakādinikāye	-paribbājakanikāye
04.	04	sijjhati	ijjhati
04.	08	yo	yo so
04.	18	bhāvo	bhāvo hoti
04.	23	ussaho	ussāho
05.	02	paripākādhiṭṭhānaṃ	adhiṭṭhānaṃ
05.	11	vaṭṭati	vaṭṭatīti
05.	14	abhinīhārakkhaṇe	abhinīhārakaraṇe
05.	18	adhikāro	adhikāro ca
05.	19	abhinīhārakkhaṇā	abhinīhārakkhaṇā ti
05.	22	kittakaṃ	kittakā

05. 24	mahāsāvikānañ	omits.
05. 27	Devīnaṃ pana bodhi-sattānam eva kālaṃ.	omits.
06. 01	abhinīhāren'eva	cābhinīhāren'eva
06. 11	eva	omits.
06. 13	desetum	desitum
06. 14	sakkanti	sakkonti
06. 19	ābhisamācārikaṃ	abhisamācārikaṃ
06. 22	karonti	omits.
06. 24	p'etaṃ	etaṃ
06. 25	Khaggavisāṇasutta-vaṇṇanāya	Khaggavisāṇasutta-vaṇṇanāyaṃ
06. 34	buddhānaṃ	buddhādīnaṃ

2. 『清浄道論注』の貝葉写本

〈大谷パーリ貝葉〉には『Visuddhimagga』の Ṭīkā（復註）である『Paramatthamañjūsā』の 3 種類の写本が存在する。(1)請求番号　XLVI（phuuk 1-11), XXXV 1-6, 8-13（phuuk 14-25), XXXV-7(phuuk 19）である。本文献は南伝アビダンマ研究の中心になるべき論書である『清浄道論』の註釈であるだけに重要なものでありながら、未だにローマ字校訂本が存在せず、入手の容易なエディションとしては、あまり厳密な校訂とはいえないデーヴァナーガリー版（Visuddhimaggo with Paramatthamañjūsāṭīkā 2 vols, ed. by Dr. Rewatadhamma, Varanasi, 1969）しかなく、研究者に不便をかこってきた。〈大谷パーリ貝葉〉では、本テキスト全体の後半約 3 分の 1 ほどではあるが、このうち、XLV-6（phuuk 19）と XXXV-8（phuuk 20）とは、テキストとしては連続しているので、これらの写本を合わせることにより、このテキストの後半部分が完全にそろうことになり（ただし、XXXV-7 は XXXV-6 : phuuk 19 と同一内容)、この重要な註釈のかなりの部分が本貝葉写本と照合できることになる。

ちなみに、XLVI-phuuk 1　の巻頭は下記のように、Visuddhimagga　XIV Khandha-niddeso の中の I Rūpakkhandho の始めの部分（Vism. 444）の註釈の途中から始まる。該当個所を BCR（タイ版 CD-ROM）からの写しで示す（注

記は〈大谷パーリ貝葉〉)。〈大谷パーリ貝葉〉の冒頭は(/)以下である。

(Vm-mhṭ : Devanāgarī ed. II p. 966, $_{11}$, BCR Vol. 63, 22, $_{19}$, タイ王室版 III 22, $_{18}$, ビルマ版：Visuddhimagga-mahātīka, Vol. II, p. 87, $_{16}$, Yangon : Buddhasāsanasamitti, 1960)

Rasaggahaṇamūlakattā ajjhoharaṇassa jīvitanimittaṃ āhāra/raso jīvitaṃ tasmiṃ ninnatāya(1) taṃ avhāyatīti(2) jivhā(3) niruttinayena.

(1) ninnitāya (2) avhayati (3) jīvha

3. Paññāsa-jātaka について

〈大谷パーリ貝葉〉には、PTS を始めとする諸刊本中にも校訂出版されていない稀覯写本が多く存在するが、その中でも、タイ方面で独自に流布されたとされる Paññāsa-jātaka という50のジャータカの中間に当たる部分が存在し、さらにその後半に位置するはずの Sisora-jātaka が完全な形で独自に存在する(『目録』pp. 235-245. 請求番号：XXVI-1～10)ので、簡単に紹介しておきたい。〈大谷パーリ貝葉〉における Paññāsa-jātaka は PTS より校訂出版されているビルマ所伝とされる Paññāsa-jātaka or Zimme Paṇṇāsa (2 vols. ed. by P. S. Jaini, PTS, 1981, 1983) の分類ではなく、田辺和子氏の報告するまだ完全な刊本にはないタイ所伝のもの(「タイに伝わる『パンニャーサ・ジャータカ』」仏教学第11号)に近いようである。〈大谷パーリ貝葉〉には、田辺氏の報告にある50のジャータカの前半部分の No. 1～39 の内、1～11と18～22を除いたすべてがほぼ順番通り存在する。そして、後半の No. 40～50 は欠けているが、田辺氏が No. 45 に数える Sisora-jātaka が別套ととして存在する(これについては、本研究協力者：大上清氏が平成8年度大谷大学大学院修士論文として研究、そのローマナイズ、試訳を報告したので、いずれ発表されるであろう)。〈大谷パーリ貝葉〉は保存状態も良く、欠損も少ないので、本写本を参照することにより、Paññāsa-jātaka の研究は飛躍的に進展するであろう。

なお、作業に当たっては、タイ版 CD-ROM : Budsir on CD-ROM A Digital Edition of Buddhist Scriptures, MUC Mahidol University Computing Center, Bangkok, Thailand. (BCR と略称)を活用した。

以下、〈大谷パーリ貝葉〉『パンニャーサジャータカ』の概要及びその中の「Sisora-jātaka」の内容について、本研究に提出された研究協力者：大上清氏（当時大谷大学大学院修士課程）の協力になるレポートを掲載する（本報告付録2）。詳細については大上氏からの発表を待つことにしたい。

4. Paññāsa-jātaka における Surūpa-jātaka について

本共同研究では、〈大谷パーリ貝葉〉の文献的特色を明らかにするため、上記『パンニャーサジャータカ』の中で、すでに PTS より校訂出版されている "Zimme Paṇṇāsa" と〈大谷パーリ貝葉〉双方に存在するテキストで、サンスクリットや漢訳等にも異本・異訳の存在する "Surūpa-jātaka (Surūparāja-jātaka)" について〈大谷パーリ貝葉〉の校訂と翻訳作業を実施することにした。

この "Surūparāja-jātaka" の諸異本・異訳及びその伝承については、幸いにして、本共同研究協力者である田辺和子氏により「Paññāsa-jātaka 中の Surūparāja-jātaka について」（印度学仏教学研究 32-2, pp. (59)-(62)）として詳細に報告されている。ただし該稿は "Zimme Paṇṇāsa" を中心にして研究されており、タイ所伝のものについては資料の指摘のみで、その内容には言及されていない。本資料のローマナイズと翻訳の成果を田辺論文と照合することにより、その文献的・伝承的特色が明らかになるはずである。

まず、〈大谷パーリ貝葉〉における "Surūpa-jātaka" のローマナイズ・異写本校合結果を報告することにしたい（本報告付録3）。ローマナイズに当たっては、"Zimme Paṇṇāsa" の他、田辺氏が将来したバンコク市国立図書館所蔵貝葉のマイクロフィルムA、B、D本（田辺和子「Paññāsa-jātaka 中の Sudhana-jātaka (I)」仏教研究10, p. 10 に紹介）を参見した。ローマナイズ作業には、本学大学院博士後期課程：舟橋智哉、同奥村浩基、同修士課程：金光朋充、大上清、ミャ・ミャ・チー各氏の協力を得た。

この作業の段階で、本写本は "Zimme Paṇṇāsa" とは相当相違しており、筆写段階と言うよりは、それ以前の口承の段階で分かれて発展したものである可能性が出てきた。したがって、本ローマナイズは "Zimme Paṇṇāsa" のそれとは全く別のテキストとして作業を行わざるを得なかった。〈大谷パーリ貝葉〉を

中心にしたローマナイズを本報告付録３．として掲載した。

なお、翻訳については、まだ試訳の段階であるので、後日改めて報告するつもりである。